

社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける これまでの主な配布資料

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第2回)(平成28年1月18日)配布資料)

資料5 社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第3回)(平成28年1月25日)配布資料)

資料5 「歴史基礎」「地理基礎」 単元構成図(一部抜粋)

資料7 「歴史総合(仮称)」の方向性・特色・構成イメージ(たたき台案)

資料8-1 「地理総合(仮称)」において重視する思考力等と授業イメージ(たたき台案)

資料8-2 授業実践事例集～地理総合(仮称)～

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第5回)(平成28年2月8日)配布資料)

資料6 「社会科等における見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ(たたき台案)

社会的事象の見方や考え方(追究の視点や方法)の例
(たたき台案)(資料6の補助資料)

資料7 社会科等で育成すべき資質・能力の整理(たたき台案)

資料8 社会科における学習プロセスの例(たたき台案)

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第6回)(平成28年2月29日))配布資料)

資料6 「公共(仮称)」の方向性として考えられる構成(たたき台案)

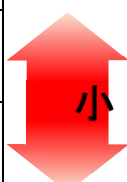


資料7 高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成(たたき台案)

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ（第7回）（平成28年3月4日）配布資料)

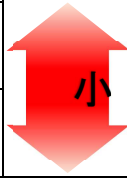
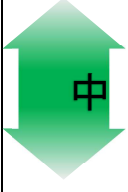

- 資料6 高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台案）
- 資料7 基軸となる問いと獲得する概念に着目した「歴史総合（仮称）」の構成イメージ（たたき台案）
- 資料8－1 高等学校学習指導要領における歴史科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台案）
- 資料8－2 高等学校歴史系新科目における授業のイメージ（例）
- 資料9 地理歴史科で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ


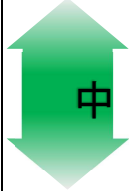

① 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力

・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味、特色や相互の関連を考察できる			




② 社会に見られる課題や問題を把握し、その解決に向けて構想する力

・ 社会に見られる複雑な課題や問題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、複数の立場や意見を踏まえて、解決について選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、解決に向けて自分たちにできることを選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握できる			

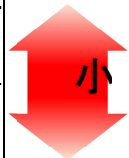
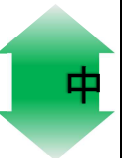

③ 考察したこと、構想したことを説明する力

・ 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる			
・ 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・ 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			

④ 考察したこと、構想したことを基に議論する力

・ 合意形成を視野に入れながら、社会的事象について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる			
・ 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・ 他者の意見につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる			

*** 参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力**

・ 追究の過程や結果を評価し、不十分な点を修正・改善することができる			
・ 追究の結果を振り返り、学んだことの成果等を自覚できる			
・ 学習問題（課題）を把握し、追究の見通しを持つことができる			

「歴史基礎」 単元構成図

主題学習		調査・発表活動, 歴史観的考察	
(1) 世界の一体化と日本	ア 諸地域世界の接触と交流 異なる地域世界が接触・交流した時、どのようなことが生じたのか？	世界の一体化 世界商品	
	異なる地域社会の接触・交流がもたらした「メリットとデメリット」とは？	① マテオリッチと坤輿万国全図 ② 軍事革命と宣教師 ③ 世界商品の時代 ④ 経済発展の明・清帝国	⑤ 鎖国と海禁 ⑥ 世界商品と日本 ⑦ 灘五郷の成立 調査 地域社会の接触・交流
	イ 近代国家の成立 国民国家はいつ誕生し、どのような特色を持ち、影響を与えたのだろうか？	国民国家	
	どうして、いつ国民国家になったのか？	① 国民国家とは ② 環大西洋革命 ③ ナポレオン戦争とドイツ ④ 対立か協調か？	⑤ 国民国家と植民地 ⑥ 国民国家と民族問題 ⑦ 移民の時代 調査 国民国家
	ウ アジアの近代と帝国主義 アジアの諸国は、どのように近代を迎えたのか？	アジアの近代 帝国主義	
	大日本主義と小日本主義の相違点は？	① 外国から見た明治維新 ② アヘン戦争と自由貿易 ③ 清朝と朝鮮の改革 ④ 東アジアの中の日清戦争	⑤ 世界史の中の日露戦争 ⑥ 東洋のマンチェスター ⑦ 神戸港とボンベイ航路 調査 大日本主義と小日本主義
(2) グローバル化した世界と日本	ア 現代の始まりと二つの世界大戦 20世紀前半、二つの世界大戦はなぜ起こり、世界をどう変えたのか？	世界大戦 民族自決	
	日本が戦争を回避できる時点はあったのか？	① 戦争の変化 ② 総力戦としての第一次大戦 ③ ロシア革命とヴェルサイユ会議 ④ 消費社会と民主主義	⑤ 全体主義の台頭 ⑥ 日中15年戦争の開始 ⑦ アジア・太平洋戦争 調査 日本の戦争回避
	イ 冷戦と第三世界 脱植民地化の動きと冷戦は、戦後世界にどのような変化をもたらしたのだろうか？	東西冷戦 脱植民地化	
	戦後のオリンピックと国際問題との関係は？	① 独立リーダーの群像 ② 東西冷戦と中国・朝鮮 ③ アジア・アフリカ諸国の独立 ④ 日本の戦後講和	⑤ 日本の戦後復興 ⑥ 日本の加盟と高度成長 ⑦ 分断国家のその後 調査 戦後のオリンピック
	ウ グローバル化と情報革命 20世紀末以降、国際政治の役割はどのように変わったのか？	地球の安全保障 人間の安全保障	
	持続可能な社会のために何が必要か？	① 地球と人間の安全保障 ② ソ連解体と超大国アメリカ ③ 地域統合	④ 地域紛争 ⑤ 情報革命とグローバル化 調査 ポスト「ミレニアム開発目標」

「地理基礎」 単元構成図

主題学習		ロジカルアプローチ・リージョナルアプローチ	
(1) 地球社会が直面する課題	ア 地球温暖化の現状と対策	ESD・GIS	中心概念 位置と分布, 場所
	地球環境問題 地球温暖化 地球温暖化の現状はどのようになっているのだろうか	ロジカル	地図と地理情報システム(GIS)の活用 地球社会はどのように表現されているのだろうか プレートテクトニクスと大地形 なぜ地球は現在のような姿になったのだろうか 大気の大循環と海洋の大循環 気候の違いはなぜ生まれるのだろうか
	イ 熱帯林の破壊が進んでいる地域の人間の活動	ESD	中心概念 人間と自然環境との相互依存関係
	地球環境問題 熱帯林の破壊 熱帯林などの森林の破壊はなぜ進んでいるのだろうか	リージョナル	熱帯林の分布 熱帯雨林はどこに分布するのだろうか 熱帯林の開発～東南アジアを事例に～ なぜ東南アジア諸国で主に信仰されている宗教は違うのだろうか 熱帯林の開発～ブラジルを事例に～ 南アメリカの地域性はどのように生まれたのだろうか なぜブラジルは発展することができたのだろうか
	ウ 砂漠化の進行している地域の人間の活動	ESD	中心概念 人間と自然環境との相互依存関係
	地球環境問題 砂漠化の進行 砂漠化はなぜ進んでいるのだろうか エネルギー問題 限りある資源・エネルギー 資源の枯渇に対してどのような対策が取られているのだろうか	ロジカル	砂漠の分布 砂漠はどこに分布するのだろうか 砂漠での生活と開発～西・中央アジアを事例に～ 西・中央アジアの地域性はどのように生まれたのだろうか 石油収入以外にどのような産業があるのだろうか エネルギー資源の開発～オーストラリアを事例に～ オーストラリアから日本へ運ばれているものは資源だけだろうか
(2) 持続可能な世界の構築	ア 現地化(ローカル化)の視点とグローバル化	グローバル化	中心概念 移動・空間的相互依存作用
	グローバル化 現地化(ローカル化) 日本は世界の諸地域にどのように現地化すれば良いのだろうか	リージョナル	日本の現地化(ローカル化)～南アジアとアフリカを比較して～ 南アジアの地域性はどのように生まれたのだろうか 日本の現地化(ローカル化)～アフリカと南アジアを比較して～ 日系企業はなぜアフリカに進出するのだろうか
	グローバル化 現地化(ローカル化) 世界の企業は日本にどのように現地化しているのだろうか。	ロジカル	北アメリカの自然環境～産業と自然環境の結びつきとは～ 人々はどのように厳しい気候を克服したのだろうか 日本への現地化(ローカル化)～多国籍企業の世界進出から～ アメリカ合衆国の産業は自然環境とどのように結びついているだろうか
	イ 地域共同体と持続可能な社会の実現	グローバル化	中心概念 地域
	グローバル化 地域共同体 日本はどの地域と地域共同体をつくれれば良いのだろうか	ロジカル	ユーラシア大陸の自然環境～日本とヨーロッパの比較のために～ ユーラシア大陸の東側と西側はなぜ気候が異なるのだろうか 日本のこれからと地域共同体～EUの広がり事例として～ ヨーロッパの地域差はどのようにもたらされたのだろうか なぜ日系企業は東ヨーロッパへ進出したのだろうか 日本のこれからと地域共同体～日本と東アジアを事例として～ 日本の領域はどこまでだろうか
	ウ 防災の視点と持続可能な世界の構築	防災・ESD	中心概念 人間と自然環境との相互依存関係
	持続可能な世界の構築 災害への備え・対策 持続可能な世界の構築のために何を学び何を身に付ければ良いのだろうか	リージョナル	日本の自然災害～身近な地域を事例として～ 日本の自然環境の特徴から起きる災害にどのように備えれば良いのだろうか 世界の自然災害～自然環境と自然災害の関係から～ 世界の自然災害に対してどのように支援すれば良いのだろうか 身近な地域の自然環境と防災 身近な地域ではどのような自然災害の可能性が高くどのように備えれば良いのだろうか

「歴史総合(仮称)」の方向性・特色・構成イメージ(たたき台案)

育成すべき資質・能力

「歴史総合(仮称)」では次の資質・能力を養う。

- 歴史を考察する手立て(視点や方法)を用いて、現代の諸課題の歴史的背景を追究する力
- 諸資料を適切に活用する技能
- 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質

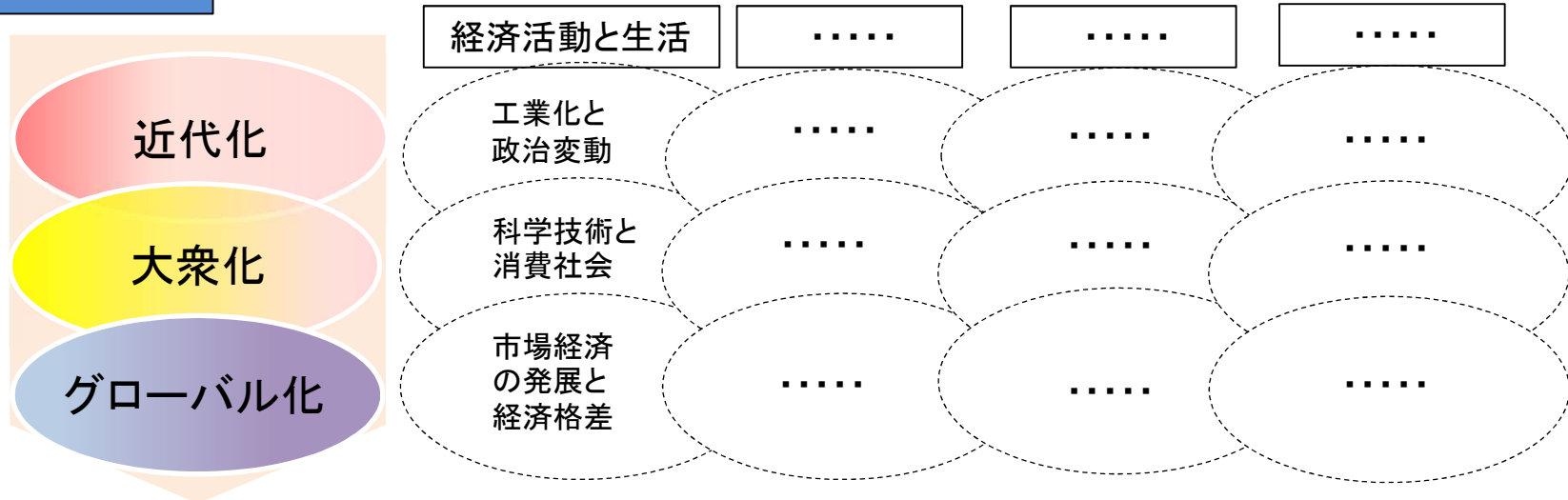
歴史を考察する手立て(視点や方法)(例)

- ・比較 (類似と差異)
- ・因果 (原因と結果)
- ・相互作用 (関係性やつながり)

➡ を用いて

- 多面的・多角的に吟味する
- 資料に基づいて解釈する

構成イメージ



(参考) 現行高等学校学習指導要領における歴史系科目

歴史系A科目の内容のまとめ

【科目の導入】

世界史A

(1)世界史への
いざない

【内容】

(2)世界の一体化と日本

(ア ユーラシアの諸文明)
(イ 結び付く世界と近世の日本)
ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化
と国民形成
エ アジア諸国の変貌と近代の日本

(3)地球社会と日本

ア 急変する人類社会
イ 世界戦争と平和

ウ 三つの世界と日本の動向
エ 地球社会への歩みと課題
オ 持続可能な社会への展望

日本史A

(1)私たちの時
代と歴史

(2)近代の日本と世界

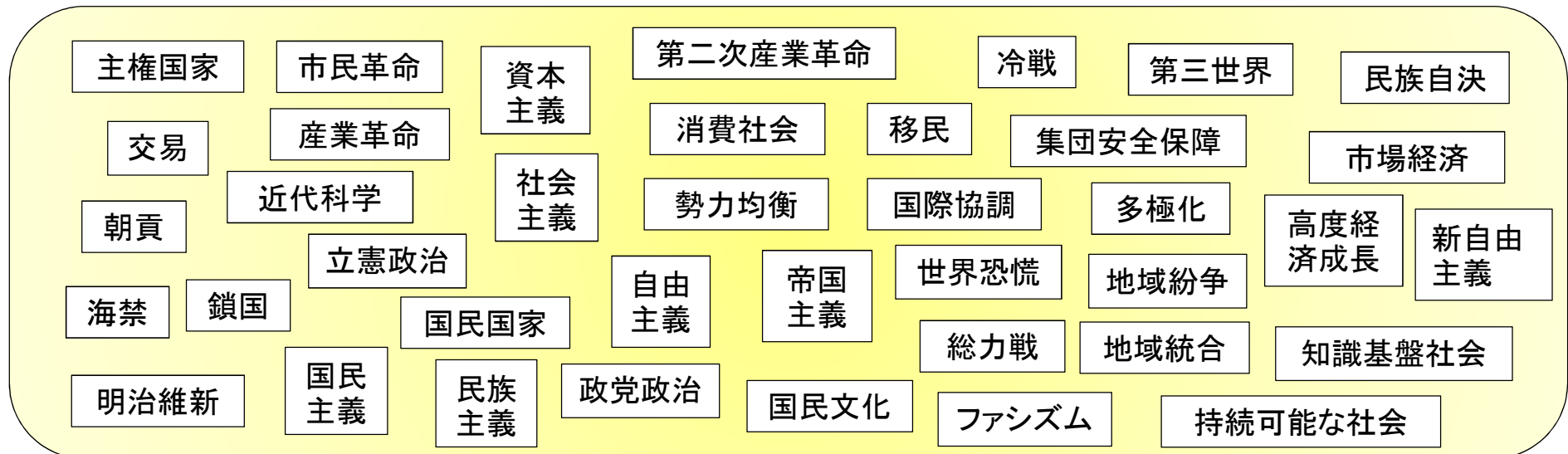
ア 近代国家の形成と国際関係の推移

イ 近代産業の発展と両
大戦をめぐる国際情勢
ウ 近代の追究

(3)現代の日本と世界

ア 現代日本の政治と国際社
会
イ 経済の発展と国民生活の
変化
ウ 現代からの探究

世界史・日本史に共通する主な学習の題材



「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）

平成28年1月25日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料8-1

項目構成(案)

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

(⇒詳細は、別紙資料参照)

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

イ地球的な諸課題と国際協力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力
- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力
- 地球規模で見られる諸課題(環境, 資源・エネルギー, 人口, 食料, 住居・都市, 民族・領土等)について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力
- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力
- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

㉗ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合せを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

㉘ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

㉙ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

㉚ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

㉛ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・(1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・(2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に、「イ」で議論, 構想(展望)する。
- ・(2)で学んだ各地の諸課題への対応策を、(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

「社会科等における見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台案）

【高等学校地理歴史科、公民科】

思考力、判断力、表現力等

- 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力
- 社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力
- 考察したことや構想したことを説明する力、議論する力

【中学校社会科】
 (地理的、歴史的、公民的分野)

社会的事象の見方や考え方 (追究の視点や方法)

現代社会を捉える見方や考え方

個人と社会との関係に着目して
 社会的事象を見出し

現代の社会生活と関連付けて

社会的事象の地理的な見方や考え方

位置や空間的な広がりとの関わりに着目して
 社会的事象を見出し

地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との
 結び付き、人間の営みなどと関連付けて

社会的事象の歴史的な見方や考え方

推移や変化などに着目して
 社会的事象を見出し

比較して相違や共通性を明確にして
 原因と結果を関連付けて

① 考察する力

② 構想する力

③ 説明する力

④ 議論する力

帰納・演繹

比較・関連付け・総合

社会的事象の見方や考え方の基礎

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や時間の経過
- ・事象相互、人々の立場相互の関係 に着目して
 社会的事象を見出し
- ・事象を比較・分類したり総合したりして(特色)
- ・国民(人々の)生活と関連付けて(意味)

【小学校社会科】
 (第3～6学年)

【小学校生活科】
 (第1、2学年)

比較する、分類する、関連付ける
 などの思考

伝える、相互交流する、振り返る
 などの表現

幼児教育

身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。

思考力、表現力の基礎の育成

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで
 表現したり、自由にかいたり、つくったりなど
 する。

したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたり
 などしたことを自分なりに言葉で表現する。

社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実

社会的事象の見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台案）

※社会的事象の見方や考え方は、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

小学校

考えられる追究の視点（例）

- 位置や空間的広がり
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件
- 時期や時間的経過
時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画
- 事象相互、立場相互の関係
工夫、努力、願い、つながり、関わり、協力、連携、対策・事業、役割、影響

追究の視点を生かした「問い」の例

- ・どのように広がっているのだろう
- ・なぜこの場所に集まっているのだろう
- ・なぜ地域によって気候が異なるのだろう
- ・いつどんな理由で始まったのだろう
- ・どのように変わってきたのだろう
- ・なぜ変わらずに続いているのだろう
- ・どのような工夫や努力があるのだろう
- ・どのようなつながりがあるのだろう
- ・なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう

社会科における思考力、判断力

◎社会的事象の見方や考え方の基礎

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や時間の経過
- ・事象相互、立場相互の関係に着目して社会的事象を見出し
- ・比較・分類したり総合したりして
- ・国民（人々の）生活と関連付けて

↓ 追究の方法

- ・社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力
- ・社会に見られる課題について、自分たちにできることを選択・判断する力

習得する知識、概念の例

- ・組立工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している
- ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まる
- ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる
- ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった。
- ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた
- ・伝統芸能はが技や道具が多くの人々に継承され今に至っている
- ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対応によって守られている
- ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている
- ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
- ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い理解し合うことが大切である

中・地理的分野

○位置や分布に関わる視点
緯度・経度、方位、距離、領域、等質地域、地方的特殊性

○場所に関わる視点
地形、気候、植生、景観

○人間と自然の相互依存関係に関わる視点
生活様式、衣食住、自然条件

○空間的相互依存作用に関わる視点
機能地域、都市圏、社会条件

○地域に関わる視点
地域性、過疎・過密、先進・発展途上

- ・それは、どこに位置するだろう
- ・それは、どのように分布しているだろう
- ・そこは、どのような場所だろう
- ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう
- ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろう
- ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう
- ・その地域はどのような特徴があり、それはどのように変化してきたのだろう

◎社会的事象の地理的な見方や考え方

- ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
- ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

↓ 追究の方法

- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力
- ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること（具体例；明石市は大阪市の西にあり、その市立天文学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあります）
- ・特定の事象は、地球の表面において特定の場所に広がること（具体例；アマゾン川流域には、広大な熱帯林が広がっています）
- ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと（具体例；岡山県の南部は、なだらかな平野が広がり、一年を通して温暖な気候の地域です）
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること（具体例；平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきました）
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと（具体例；東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業が古くから発展してきました）
- ・空間的な広がりには、固有の性格を持ち、変容すること（具体例；中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっています）

中・歴史的分野

○年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代区分

○諸事象の推移や変化に関わる視点
変化、発展、時代の転換

○諸事象の特色に関わる視点
相違、共通性、時代の特色

○事象相互の関連に関わる視点
原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義

- ・いつ（どこで、誰によって）おこったか
- ・前の時代とどのように変わったか
- ・どのような時代だったか
- ・なぜおこった（何のために行われた）か
- ・どのような影響を及ぼしたか

◎社会的事象の歴史的な見方や考え方

- ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
- ・比較して相違や共通性を明確にして
- ・原因と結果を関連付けて

↓ 追究の方法

- ・時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力
- ・歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・今も世界に広まるいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明地域の都市を中心におこった
- ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一的支配が弱まり、大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ
- ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった
- ・東アジア各地の国家統一の動きをうけて、中央集権的な法治体制をめざす律令国家の建設が進められた
- ・モンゴル襲来のおと御家人の経済的困窮と武家社会における専制的支配への不満が強まり、鎌倉幕府は倒壊に向かっていった

中・公民的分野

○現代社会を捉える視点
対立と合意、効率と公正、影響、意義、働き、機能、関連、多様性

○社会に見られる課題や問題の解決策を構想する視点
継承、創造、責任、役割、選択、配分、向上、整備、保全、保護、権利、義務、発展、維持、保障、推進、形成、国際協調、貢献、熱意、持続可能

- ・どのような影響を受けているのか
- ・私たちにとってきまりとは何だろうか
- ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか
- ・なぜ議会を通して政治を行うのか
- ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか
- ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか
- ・民主政治を推進するために何が必要か
- ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか

◎現代社会を捉える見方や考え方

- ・個人と社会との関係に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

↓ 追究の方法

- ・社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力
- ・現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・私たちのものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって影響を受けている
- ・人間は社会的存在であり、よりよい社会生活を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要である
- ・人間の生活の維持・向上を図ることに経済活動の意義がある
- ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である
- ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
- ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である

社会科等で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

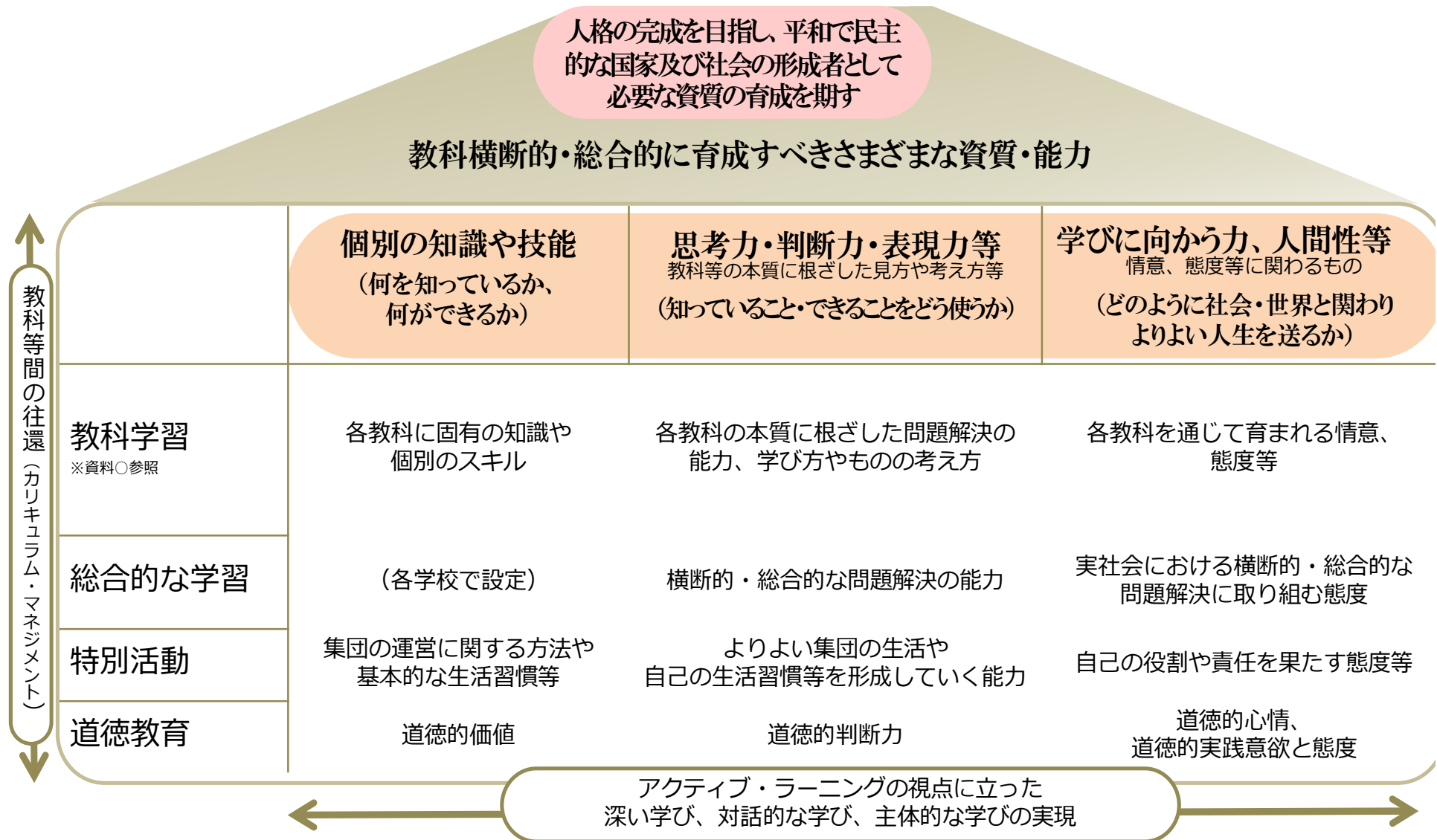
平成28年2月8日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料7

	個別の知識や技能 (何を知っているか, 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること, できることをどう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会, 世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活についての理解(地域や我が国の国土の地理的環境, 社会の仕組みや働き, 地域や我が国の歴史や伝統と文化, それらと人々の生活との関連) ・観察, 資料活用の技能(社会的事象に関する情報を「集める」「読み取る」「まとめる」技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方や考え方の基礎を用いて, 社会的事象の特色や相互の関連, 意味を多角的に考える力, 社会に見られる課題を把握して, 社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全や自然災害の防止, 我が国の産業の発展や社会の情報化への関心, 先人の業績や優れた文化遺産についての興味・関心 ・地域社会の一員としての自覚, 地域社会に対する誇りと愛情, 我が国の国土に対する愛情, 我が国の歴史や伝統を大切にし, 国を愛する心情, 平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚 など * 世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心, よりよい社会を考えようとする態度等について検討
中学校 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史に対する理解 ・国民主権を担う公民として必要な基礎的教養 ・資料活用の技能(社会的事象に関する様々な情報を適切に収集, 選択, 活用する技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方や考え方をを用いて, 社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 社会に見られる課題や問題について公正に判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に対する関心 ・我が国の国土や歴史に対する愛情 ・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す態度 など
地理的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的な認識 ・地図の読図や作図, 景観写真の読み取りなどの地理的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の地理的な見方や考え方をを用いて, 事象の特色や相互の関連, 意味を多面的・多角的に考察する力 ・地域に見られる課題の解決に向けて, 複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・調査したことや思考・判断したことを地図等を用いて説明したり議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の地理的事象に対する関心 ・生徒が生活している土地に対する関心 ・地域の課題を見出し, 地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度 など
歴史的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の大きな流れ, 伝統と文化の特色の理解 ・歴史上の人物と文化遺産の理解 ・歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましの理解 ・年表など歴史に関わる諸資料を活用する技能 * 世界の歴史の扱いを充実させること等を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の歴史的な見方や考え方をを用いて, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 ・歴史にみられる諸課題について, 複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・思考・判断したことについて説明したり議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象や身近な地域の歴史への関心 ・他民族の文化や生活などへの関心 ・我が国の歴史に対する愛情, 国民としての自覚 ・国際協調の精神 ・歴史上の人物と文化遺産を尊重する態度 など
市民的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての対立と合意, 効率と公正などの理解 ・政治や経済, 国際関係に関する概念の理解 ・統計や新聞, 映像など現代の社会的事象に関する諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える見方や考え方をを用いて, 社会的事象を現代の社会生活と関連付けたり, 現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして社会に見られる課題についての自分の考えを再構成しながら議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的事象に対する関心 ・自国を愛し, その平和と繁栄を図ることが大切であることの自覚 ・各国が相互に主権を尊重し, 各国民が協力し合うことが重要であることの自覚 ・社会に見られる課題に着目し自ら考えようとする態度 など * 政治参加も含め社会に参画しようとする関心, 態度等について検討

(参考)

学習指導要領等の構造化のイメージ (仮案・調整中)

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないかと。



○幼児教育においては、主体的な活動である遊びを通じて総合的に指導。

**(参考) 全ての生徒に共通に育むべき資質・能力と、高等学校各教科の必履修科目の関係等
(仮案・調整中)**

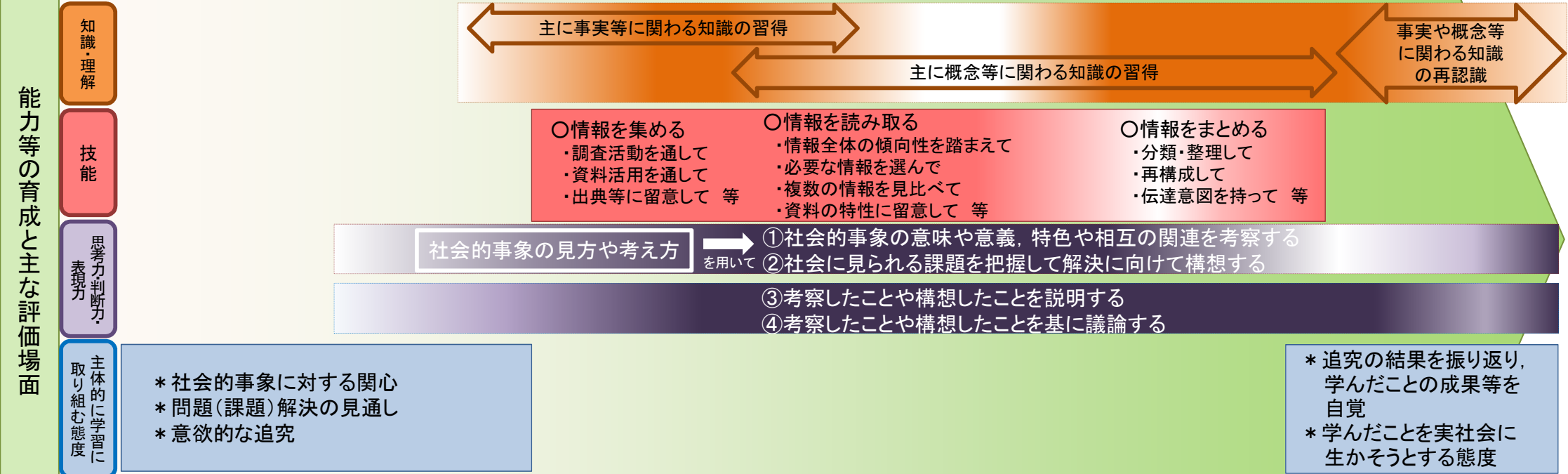
平成27年8月26日中教審 教育課程企画特別部会
論点整理 補足資料 関係箇所抜粋

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることを どう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会, 世界と関わり よりよい人生を送るか)
地理 (地理総合(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムなどの地理的な技能 ・地球規模の自然システム, 社会・経済システムの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置や分布, 場所, 地域などの空間概念を捉え追究する地理的な見方や考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりに向けて, 地球的課題や地域的課題の解決を模索する態度など
歴史 (歴史総合(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び世界の歴史の考察に関わる概念の理解 ・歴史に関わる諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の歴史・グローバルな歴史を横断的・相互的に捉え, 諸資料を活用して, 歴史に関わる諸課題を考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
公民 (公共(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を捉え, 考察し選択・判断していくために必要な概念的な枠組みの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家・社会の形成者として必要な選択・判断を主体的に行い, 他者と協働しながら様々な課題を解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画への意欲や態度 ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚など

* 高等学校地理歴史科, 公民科における新科目については, 今後さらに検討を進める。

社会科における学習プロセスの例（たたき台案）

		課題把握		課題追究		課題解決		新たな課題					
		動機付け		方向付け		情報収集		考察・構想		まとめ		振り返り	
主な学習過程の例	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習問題をつかむ <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を知る ・気付きや疑問を出し合う ・学習問題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てる ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想や学習計画に基づいて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・観察や調査・見学、資料活用などを通して調べる ・他の児童と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的事象の意味、特色や相互の関連を考える <ul style="list-style-type: none"> ・多角的に考える、話し合う ● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちができることを選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習問題を振り返ってまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことをまとめる ・考えたことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習を振り返って考える <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方を振り返る ・学習成果を(学校外の)他者に伝える ・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする 						
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想や仮説の検証に向けて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> ・複数の立場や意見を踏まえて解決について選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 考察したことや構想したことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・結論について他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする 						

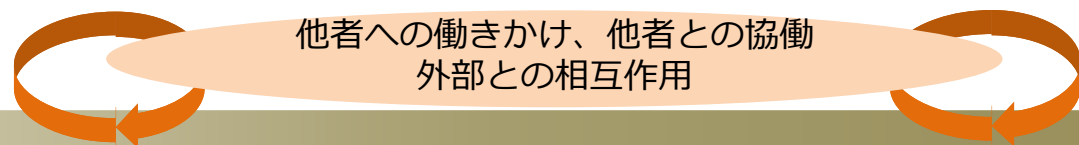


■ 学習過程全体について留意すべき点 ■

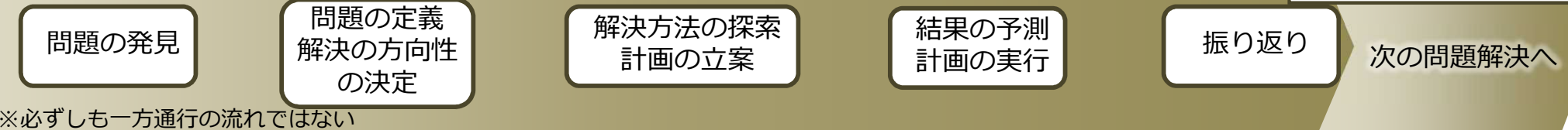
- ・各プロセスは例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ・学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び、主体的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること

問題発見・解決のプロセス

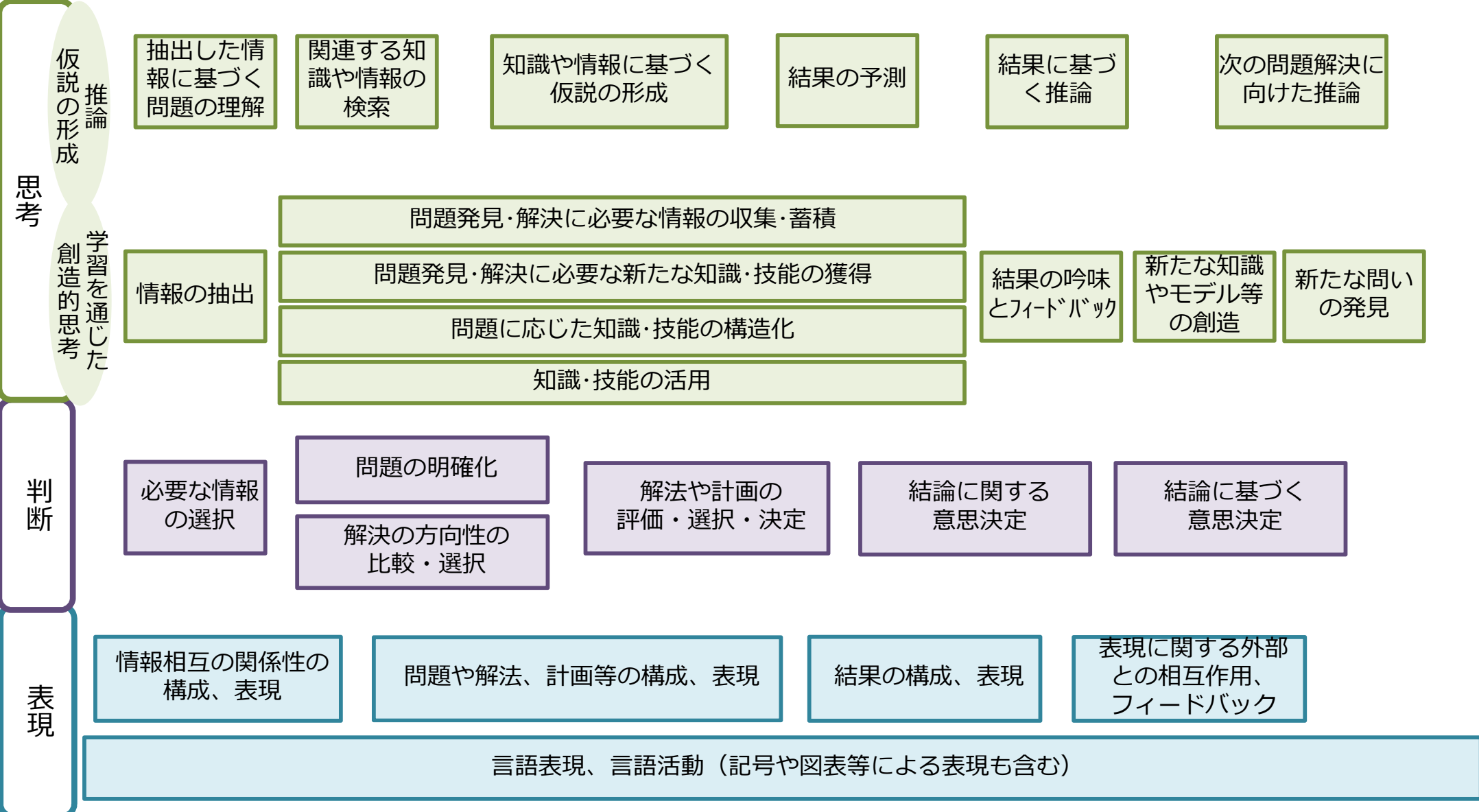
検討中



(参考)
教育課程企画特別部会
論点整理参考資料



プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例



「公共（仮称）」の方向性として考えられる構成①（たたき台案）

平成28年2月29日
教育課程部
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料6

新必修科目(案)

「公共(仮称)」

(1)「公共」の扉

「平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育成

ア 公共的な空間を作る私たち

⇒今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、

- ・様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること
 - ・①「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通して自らを成長させること、
 - ②人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うこと、
- 両者によってよりよい集団、社会(公共的な空間)を作り出していくこと(勤労観・職業観の育成を含む)について学ぶ。

倫理的主体となる私たち

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる、

- ①「行為の結果における効用として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」、
 - ②「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」、
- について理解させる。その際、

- ・人が追求するものは経済的価値に限られるものではなく、多義的であること
- ・両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要であること
- ・行為の結果における効用について、多面的・多角的に考えていくことが重要であること
- ・行為の動機について、個々の動機に留まらず、それらを継続的に考えていくことにより、人間としての在り方生き方について考えていくことが重要であること

などを取り上げる。

※ 指導のねらいを明確にした上で、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れること。その際、(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」で取り扱う課題と連動した課題を取り上げるようにする。

ウ 公共的な空間における基本的原理

⇒個人と社会との関わりにおいて、社会における基本的な原理に焦点を置いて考える。具体的には、個人の尊重を前提に、協働関係の共時性と通時性に関する比較衡量などを通して、人間の尊厳と平等、社会の安定性をともに成り立たせることが、公共的な空間の中で協働するために必要であることについて理解させる。その際、

- ・民主主義、自由・権利と責任・義務、相互承認・・・

などを取り上げる。

<参考> 学校における道徳教育は、…人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科の属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。（「高等学校学習指導要領総則第1款 教育課程編成の一般方針」）

公民科目新設の方向性として考えられる構成②（たたき台案）

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

- ⇒小・中学校社会で習得した知識等を基盤に、社会的事象の見方や考え方を働かせながら、(1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用して現実の社会的事象について考察、追究する。
- ・社会を構成する主体となるために、協働の必要な理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、自立した主体として生きるために必要な知識を身に付ける。

ア 政治的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの（議論により、意見や信念、利害の対立状況を調整し、合意形成することを通して、よりよい社会を築くこと）

<題材の例>

政治参加、世論の形成、国際貢献…

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題（労働関係法制を含む）…

職業選択、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり…

契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画…

（ア～エの主体のうち二つ、あるいは三つの主体が複合的に関連し合う題材を取り扱うことが考えられる）

司法参加…

契約、消費者の権利や責任…

情報モラル…

⇒協働により目指すべきもの（公正な手続きに則り比較衡量を行うことを通して、個人や社会の紛争を調停・解決すること）

⇒協働により目指すべきもの（情報に関する責任や、利便性と安全性を多面的・多角的に考えていくことを通して、望ましい情報社会を築くこと）

ウ 法的主体となる私たち

エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となる私たち

<考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの準備と振り返り…

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科と連携

<留意点>(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」において課題を探究する学習を行うことに留意し、個別的・網羅的に題材を取り扱うことなく、主体相互の有機的な関連を図るようにすることが求められる。

公民科目新設の方向性として考えられる構成③（たたき台案）

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

別紙

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒ (1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用するとともに、(2)「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」で行った課題追究的な学習で扱った現実社会の諸課題への関心を一層高め、個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造への主体的参画

イ よりよい社会の構築への主体的参画

ウ 我が国と国際社会への主体的参画

<題材の例> 公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和・・・などについて探究

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科と連携

<留意点>(1)「公共」の扉、(2)「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」の学習を踏まえて、科目のまとめとして(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」における課題を探究する学習が行われることに留意し、(1)、(2)においては、(3)で課題を探究する学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めることが求められる。

<「公共（仮称）」において考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの準備と振り返り ……

<「公共（仮称）」の学習において関係する専門家・機関> 選挙管理委員会、企業、経済団体、起業家、弁護士、報道機関、消費者センター、留学生、NPO、NGO ……

※ 「公共（仮称）」においては、キャリア教育の観点から、経済、法、情報発信などに対して主体的に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる。

●中央教育審議会答申（平成20年1月17日）

8. 各教科・科目等の内容 ② 社会、地理歴史、公民

(i) 改善の基本方針

・・・持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。

●高等学校学習指導要領解説公民編

○現代社会

2 内容とその取扱い

(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 「ウ 個人の尊重と法の支配」

「自由・権利と責任・義務」については、自由・権利と責任・義務は切り離すことのできない関係にあることを理解させる。・・・例えば、基本的人権に関する課題を設定し、「幸福、正義、公正などを用いて考察させる」（内容の取扱い）。その際、なぜそのような基本的人権の保障が主張されるのか、そのような権利の保障と、他者の権利や公共の利益とをどのようにして調和させるかについて考察させることが考えられる。

○倫理

2 内容とその取扱い

(3) 現代と倫理 「イ 現代の諸課題と倫理」

「環境」については、人間と自然とのかかわりや自然観などについて、先哲の考え方や科学的な見方や考え方、知識を手掛かりにして考えさせ、科学技術の発達による光と影の両面について考えを深める。・・・その際、人類の知恵がこれまで様々な問題を解決してきたことについても考えさせ、いたずらに不安感をもつことのないようにするとともに、環境問題にかかわる人類の経済活動と公共政策の在り方について、地球規模の問題としてと同時に身近な地域の問題として考えさせるなど、問題の解決に積極的に取り組む態度を育てるよう留意して指導に当たる。

3 指導計画の作成と指導上の配慮事項

ア 中学校社会科及び道徳との関連に配慮すること

・・・また、中学校における道徳教育は、「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を……具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成する」ことを目指すものである。

○政治・経済

1 科目の性格と目標

今回の改訂では、グローバル化や規制緩和が進展し一層の変化が予想される社会において、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きること、持続可能な社会の実現を目指すなど、**公共**的な事柄に自ら参画していく資質や能力の育成が求められていることに留意した。

2 内容とその取扱い

(1) 現代の政治 「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」

「権利と義務の関係」については、個人の尊重と法の下での平等の原理に基づき、人はそれぞれ自己の権利を主張しその保障を要求し得ると同時に、他者の権利を尊重する義務を負うということ、すなわち、権利とは義務を伴うものであることを理解させる。その際、社会における権利相互の衝突とそれらにかかわる裁判所の判断、契約における権利と義務の関係など具体的な事例を取り上げ、権利と権利の衝突を調整する原理として**公共**の福祉という考え方などがあることを理解させる。

(2) 現代の経済 「ア 現代経済の仕組みと特質」

「市場経済の機能と限界」については、市場とは経済社会における需要と供給をつなぐ取引の場であることを理解させるとともに、商品市場、金融市場、労働市場など様々な種類の市場があることに気付かせる。・・・

また、市場の競争性が維持されている場合においても、**公共**財の提供がされにくいことや環境破壊など市場の失敗があることを理解させる。

・・・「財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割」については、・・・。なお、財政は国だけでなく地方**公共**団体も行っていることに気付かせ、両者の役割分担や連携の在り方について考察させる。

●広辞苑第六版(岩波書店)

こうきょう【公共】

社会一般。おおやけ。

こうきょうざい【公共財】

その便益を多くの個人が同時に享受でき、しかも対価の支払者だけにその享受を限定できないような財やサービス。公園・消防・警察など。

こうきょうせい【公共性】

広く社会一般に利害や正義を有する性質。

●大辞林 第三版(三省堂)

こうきょう【公共】

- ① 社会全体に関すること。おおやけ。
- ② おおやけのものとして共有すること。

●精選版日本国語大辞典（小学館）

こうきょう【公共】

- ①社会一般。公衆。おおやけ。
- ②公衆が共有すること。社会生活がそれにかかわること。

新必修科目「公共」(仮称)の構成

- 現代社会の課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する。
- 立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力を養う。
- 持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」として必要な資質・能力を養う。

新選択科目
「倫理」(仮称)

新選択科目
「政治・経済」
(仮称)

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を育み、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める学習を充実

自立して思索を行うとともに、他者と共に生きる主体を育む「倫理」

※ 思想史的知識の習得に終始しないようにする。

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」

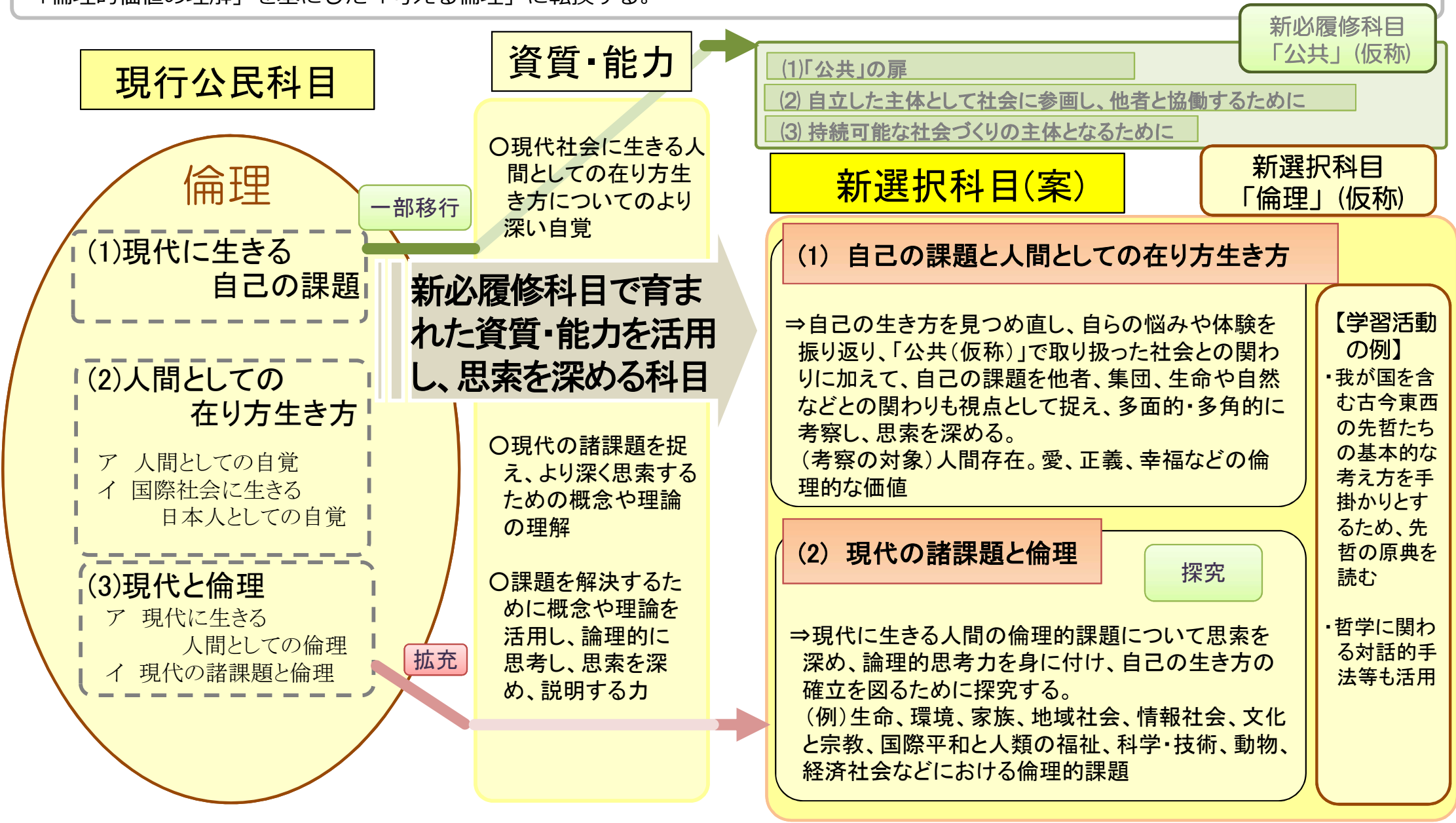
※ 制度・仕組みの知識の習得に終始しないようにする。

※ 現行の選択必修科目「現代社会」同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる新必修科目「公共」(仮称)を設置することとなっている。この科目は、「現代社会」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点が多く、その発展と捉えることもできることから、「現代社会」については科目を設置しないことも含め検討する。

高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台案）Ⅰ

<科目構成の考え方>

・新必修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的諸課題を探究し、人間としての在り方生き方をより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図る主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換する。



<科目構成の考え方>

・小・中学校社会で身に付けた社会的事象の見方や考え方を基盤に、新必修科目で習得した選択・判断の基準となる概念を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題や国際社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家・社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させる。

新必修科目
「公共」(仮称)

(1)「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

現行公民科目

資質・能力

○国際社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度

新選択科目(案)

新選択科目
「政治・経済」(仮称)

政治・経済

(1)現代の政治

- ア 民主政治の基本原則と日本国憲法
- イ 現代の国際政治

(2)現代の経済

- ア 現代経済の仕組みと特質
- イ 国民経済と国際経済

(3)現代社会の諸課題

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、社会形成に向かう科目

○正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念の理解

○社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決策を構想する力

○構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力

(1) 民主政治の基本原則と現代の経済

⇒「公共(仮称)」で取り扱った法や民主政治、現代経済について、それらを構成する様々な専門領域を深く追究し、複雑な現代政治・経済の特質を捉えるとともに、その解決策を探究する。

(課題例) 望ましい政治の仕組み及び主権者としての政治参加の在り方、経済活動の在り方と福祉の向上の関連、少子高齢社会と社会保障制度…

探究

(2) グローバル化が進む国際政治・経済

⇒現代の国際政治・経済に関わる概念や理論、複雑な国際政治・経済の特質を捉え、それを説明するとともに、その解決策を探究する。

(課題例) 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割、国際経済における日本の役割、地球環境と資源・エネルギー問題…

探究

【学習活動の例】

・複雑な現実社会の諸課題を取り扱い、協働して課題の解決策を探究する

・討論、ディベートなどの手法等も活用

構成原理

「地理総合（仮称）」は、主題を基に課題解決的な学習により、社会で生きて働く地理的実践力の育成の場として、「新選択科目」は、地理総合で習得した地理的な技能、見方や考え方を基に、世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、現代日本に求められる国土像の在り方について展望することにより、高等教育での学びにも繋がる本格的な地理的探究の場として構成する。

現行地理B科目

資質・能力

- (1) 地図と地理情報システムの活用
- (2) 国際理解と国際協力
- (3) 防災と持続可能な社会の構築

新必修科目
「地理総合」（仮称）

既得の 地理的な技能、世界のグローバル化や持続可能な社会づくりといった考え方などを踏まえて

新選択科目(案)地理に関する探究科目

地理B

- (1) 様々な地図と地理的スキル
 - ア 地理情報と地図
 - イ 地図の活用と地域調査
- (2) 現代世界の系統地理的考察
 - ア 自然環境
 - イ 資源、産業
 - ウ 人口、都市・村落
 - エ 生活文化、民族・宗教
- (3) 現代世界の地誌的考察
 - ア 現代世界の地域区分
 - イ 現代世界の諸地域
 - ウ 現代世界と日本

移行

- 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解 など

新必修科目で身に付けた学習の成果を活用し、探究を深める科目

拡充

- 世界の諸事象を系統地理的に考察する力や、世界の諸地域を地誌的に考察する力 など
- 世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため、進んで参加し貢献しようとする態度 など

(1) 現代世界の系統地理的考察

事象からのアプローチ

- ア 自然環境
- イ 資源、産業
- ウ 人口、都市・村落
- エ 生活文化、民族・宗教
- オ 観光、交通、通信等

⇒系統地理的に事象の規則性や傾向性などを考察する。
⇒それぞれに環境問題、食料問題などの関連諸課題を追究する。

(2) 現代世界の地誌的考察

地域からのアプローチ

- ア 現代世界の地域区分
- イ 現代世界の諸地域

⇒地域の概念、地域区分の意義を考察し、実際に地域を区分する。
⇒地誌的に地域の構造や変容などを考察する。
⇒地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究する。

(3) 現代日本に求められる国土像

総合的な地理的アプローチ

⇒現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望する。

現行地理A科目

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

- ア 地球儀や地図からとらえる現代世界
- イ 世界の生活・文化の多様性
- ウ 地球的課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

- ア 日常生活と結び付いた地図
- イ 自然環境と防災
- ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

資質・能力

- 地理的な技能
「実践的な社会的スキルとしてのGIS活用」
- 地理的知識と地理的理解
「地球規模(グローバル)の自然システム、社会・経済システムの知識と理解」

持続可能な社会づくり に求められる地理科目

- 地理的な見方や考え方
「空間概念を捉える力」
- 態度
「地域、国家的及び国際的な課題解決を模索する
献身的努力」

(「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」)

新必修科目(案)

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用

GIS

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう、地理を学ぶ意義を確認するとともに、地図や地理情報システム(GIS)などに関わる汎用的な地理的技能を身に付ける。

(2) 国際理解と国際協力

グローバル化

ア 多様な生活・文化と国際理解

⇒自然と社会・経済システムの調和を図った、世界の多様性のある生活・文化について理解する。

イ 地球的な諸課題と国際協力

⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア 自然環境と災害対応

防災

⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや、そこでの防災対策について考察する。

イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり

ESD

⇒生活圏の課題を、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え、持続可能な社会づくりのための改善、解決策を探究する。

<参考>

- ・中学校地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

【参考】 現行学習指導要領解説に示された「地理的な見方や考え方」

- ① ① **どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか**、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。
- ② **また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか**、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。
- ③ **そうした地理的事象がなぜそこでそのようなみられるのか**、また、**なぜそのような分布したり移り変わったりするのか**、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。
- ④ **そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか**、諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究し、とらえること。
- ⑤ **そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか**、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ、考えること。
- ⑥ **そのような地理的事象はその地域でいつごろからみられたのか、これから先もみられるのか**、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること。

【参考】『地理教育国際憲章』(1992年8月制定)で示された「地理学研究の中心的概念」

「地理学者は、常に次のような問いかけを発している。それは、どこにあるのか。それは、どのような状態か。それは、なぜそこにあるのか。それは、どのように起こったのか。それは、どのような影響をもっているのか。それは、人間と自然環境の相互便益のために、どのように対処されるべきか。これらの発問に対する答えを求めるには、地表上での位置、状況、関係、空間的分布、あるいは現象の相違、といった要素を調べることが必要となる。現況の説明は、歴史並びに現代の双方の資料からなされる。また、現在の特徴的傾向は、将来の発展の可能性を示す指標として理解される。地理学研究の中心的概念は、「位置と分布」、「場所」、「人間と自然環境との相互依存関係」、「空間的相互依存作用」、「地域」、である。」

1)位置と分布

人間と場所は、この地表面においてそれぞれ異なる絶対的位置と相対的位置とを有している。これらの位置は、財と人間と情報の流れで結び合わされており、地表面上での分布とパターンを説明してくれる。また、人間と場所の位置に関する知識は、地元、地域、国家、地球上でのそれぞれの相互依存関係を理解するための前提条件となる。

2)場所

場所は、自然的にも人文的にも多様な特徴を示す。自然的特徴に含まれるものには、地形、土壌、気候、水、植生、動物、人間生活、などがある。また、人間は、それぞれの信念や哲学にしたがい、文化、集落、社会・経済システム、あるいは生活様式などを発展させる。場所の自然的特徴に関する知識、あるいは人々の環境への関心や行為は、人間と場所の相互依存関係を理解するための基礎となる。

3)人間と自然環境との相互依存関係

人間は、自然環境を多様に利用する。また、様々な働きかけにより、多様な文化景観を造り出す。人間は、一方で自然諸要素の影響を受けるとともに、他方で、身の周りの環境を調和の取れた景観に変えたり、ときには不調和な景観へと変化させる。つまり、空間における複雑な相互依存関係への理解が、環境計画や環境管理、あるいは環境保護にとって大変重要なものとなる。

4)空間的相互依存作用

資源は、一般にこの地球上に不均等に分布する。資源の自給自足ができる国など存在しえない。また、場所は、資源や情報を交換するために、運輸・通信システムにより結ばれている。さらに、空間的相互依存作用に立ち入ってみると、財や情報の交換、あるいは人口移動による人々の協力を理解することにつながる。

また、空間的相互依存作用を探求することは、現代の問題を浮き彫りにしたり、地域的、国家的あるいは国際的な相互依存作用や協力関係の改善へのアイデアを提起したり、あるいは、貧困と富裕並びに人類の福祉への深い理解をもたらしてくれる。

5)地域

ある地域は、固有の要素により特徴づけられた一定の空間的ひろがりをもつ区域である。例えば、政治的要素からみれば、国家や都市が、自然的要素では、気候や植生地帯が、さらに社会・経済的要素からは、開発の進んだ国々と低開発諸国などが区分される。地域は、空間的にも時間的にも躍動的なものである。地域は、研究のための、あるいは変貌をとげる環境としての基礎単位として取り扱うことができる。

地理学者は、地域をいろいろと異なった規模、つまり地域社会、国家、大陸、地球規模で研究の対象とする。地域のもつ統合的システムは、一つの地球的生態系概念へと導かれる。地球システムの中の異なる地域の構造と発展過程の理解は、人々の地域的、国家的アイデンティティ及び国際的立場を明らかにするための基礎となる。

「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）

平成28年1月25日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料8-1

項目構成(案)

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

(⇒詳細は、別紙資料参照)

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

イ地球的な諸課題と国際協力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力
- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力
- 地球規模で見られる諸課題(環境, 資源・エネルギー, 人口, 食料, 住居・都市, 民族・領土等)について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力
- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力
- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

㉗ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合せを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

㉘ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

㉙ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

㉚ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

㉛ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・(1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・(2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に、「イ」で議論, 構想(展望)する。
- ・(2)で学んだ各地の諸課題への対応策を、(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

基軸となる問いと獲得する概念に着目した「歴史総合(仮称)」の構成イメージ(たたき台)

平成28年3月4日
 教育課程部会
 社会・地理歴史・公民
 ワーキンググループ
 資料7

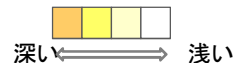
- 〈科目構成の考え方〉
- ・現代的な諸課題のおこりやその推移に関わる事柄について
 - ・近現代の歴史の大きな転換(「～化」)に関わる事柄を中心に
 - ・自国のこととグローバルなことが影響し合ったりつながったりする歴史の諸相に着目して
 - ・「基軸となる問い」やそれに基づく具体的な問いの設定と追究を通して
 - ・焦点となる問いやそれによって獲得される概念に留意して



諸資料を活用しながら、歴史を考察する手立てを用いて追究し、「歴史の学び方」を身に付ける。

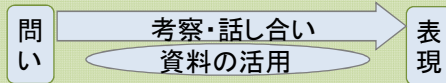
		経済に関する 現代的な諸課題の背景	政治に関する 現代的な諸課題の背景	国際関係に関する 現代的な諸課題の背景	社会・文化に関する 現代的な諸課題の背景	
歴 史 の 転 換 を 捉 え る 視 点	近代化	基軸となる 問いの例 欧米と日本の工業化の進展にはどのような違いがあるか。その違いは世界の情勢にどのような影響を及ぼしたか。	政治上の革命は、経済や社会のどのような変化と関係しているか？	欧米諸国や日本が海外に向かった理由は、以前とどのように違っていたか？	人々の権利をめぐる運動は、社会にどのような影響を与えたか？		
		獲得する 概念の例 産業革命 資本主義 社会主義		
	大衆化	基軸となる 問いの例					
		獲得する 概念の例					
	グローバル化	基軸となる 問いの例					
		獲得する 概念の例					

- * 学習課題によって、取り上げる時期や地域を広げて設定するなどの工夫が考えられる。
- * 「近代化」「大衆化」「グローバル化」は、歴史の転換を捉える視点であって、時期の区分ではない。
- * 歴史の転換への関わりの深さ



新必修科目「歴史総合(仮称)」

- 現代的な諸課題の背景にある歴史を、グローバル化につながる近現代の歴史の転換に着目して追究する。
- ◎単元の基軸となる本質的で大きな問いを設け、諸資料を適切に活用しながら、比較や因果関係を追究するなど歴史的な見方や考え方をを用いて考察する「歴史の学び方」を身に付ける。



現行科目「世界史B」

- (1)扉
- (2)形成
- (3)交流と再編
- (4)結合と変容
- (5)地球世界の到来

現行科目「日本史B」

- (1)原始・古代
- (2)中世
- (3)近世
- (4)近代
- (5)両大戦期
- (6)現代

◎「歴史総合(仮称)」で習得した「歴史の学び方」を活用する

新選択科目(案)
(世界史に関わる探究科目)

- 諸地域世界の歴史の大きな枠組と展開を広く深く考察する。
- 前近代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で育んだ技能を生かして、諸資料を活用して歴史を考察し表現する。
 - ・近現代につながる諸地域世界の文化の多様性や複合性を時間軸(タテ)と空間軸(ヨコ)の変化に着目して理解する。
- 近現代では、
 - ・諸地域世界の歴史の相互依存性や多元性に着目して、諸資料を活用し、広い視野から考察し表現する学習を通して、現代につながる諸課題を多面的・多角的、歴史的に追究、探究する。
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念に加え、さらに考察を深めるために必要な歴史的な概念を習得する。

新選択科目(案)
(日本史に関わる探究科目)

- 我が国の歴史の展開を広く深く総合的に考察する。
- 前近代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で育んだ技能をより一層高め、諸資料を活用して歴史を考察し表現する。
 - ・各時代における重要な概念を習得するとともに、現代につながる我が国の伝統や文化の特色を理解する。
- 近現代では、
 - ・我が国の歴史にかかわる様々な分野から具体的な事柄を取り上げ、自ら課題を設定し多様な資料を活用して歴史を解釈するなどの学習を重視して、現代につながる諸課題を多面的・多角的、歴史的に追究、探究する。
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念に加え、前近代の学習で育成した資料に基づいて歴史を考察し表現する力を活用して、さらに考察を深めるために必要な歴史的な概念を習得する。

※ 歴史用語の在り方について、研究者と教員との対話を通じて、歴史を考察する手立てに着目するなどして構造化を図る。

	新選択科目(案)(世界史 に関わる探究科目)	歴史総合(仮称)	新選択科目(案)(日本史 に関わる探究科目)
ねらい	17世紀を前後して始まったイギリスの社会構造の変革が、大西洋沿岸地域相互のつながりをもたらしたことをつかみ、それが世界で最初の産業革命を始める前提条件を築いたことを追究する	欧米諸国と日本の工業化の進展を比較して、共通点と相違点を整理し、当時の各国内や世界の国家・諸地域間の関係にどんな影響を与えたか考察する	日本の急速な産業革命の進展について自ら問いを設け、変革前の産業段階を踏まえ、資本の蓄積の過程、国内外の諸状況を背景とした政策など、総合的な視点から追究する
問い	「16世紀末から経済危機に陥っていたイギリスが、なぜ世界初の工業化を達成したのか」	「欧米と日本の工業化の進展にはどのような違いがあるか。その違いは世界の情勢にどのような影響を及ぼしたか」	「欧米で長期をかけて進行した産業革命を、なぜ日本は短期で実現させることができたのか」
獲得する概念	農業革命、商業革命...等	資本主義, 帝国主義, 植民地, 富国強兵...等	豪農商, 殖産興業, 寄生地主制...等
授業展開 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○物価動向と洗礼・埋葬者数の変化を資料から読み取り、当時のイギリスの状況を理解する ○危機の脱出方法の説明として有効な資料を選択して、その有効性を話し合う ○世界で最初の産業革命を始めることにつながった前提条件を説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業革命の時期や経緯、主体となる人々などについて、資料から欧米と日本の相違点を読み取る ○欧米諸国の工業化と日本の近代化に向かう政治変革との関係性を話し合う ○工業化の進展の差異が、世界の国や地域間の関係に及ぼした影響について説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○マニュファクチュアの進展や在郷資本の成長など、前提となる19世紀前期の国内産業の状況を資料から読み取る ○技術用語の日本語化、模範工場建設など、日本の技術導入の特徴とその意義について話し合う ○19世紀末の国内、対外的状況と経済政策、政商や在郷資本家などの動向を総合して説明する

* 上記は、高等学校歴史系新科目を想定して作成した授業イメージ(例)の1つである。生徒の実態に即して、さらに多様な授業イメージが考えられる。

地理歴史科で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

	個別の知識や技能 （何を知っているか、 何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 （知っていること、できることを どう使うか）	情意・態度等に関わるもの （どのように社会、世界と関わり よりよい人生を送るか）
地理総合 （仮称）	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の自然システム、社会・経済システムの理解 地図や地理情報システムなどの地理的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 位置や分布などの空間概念を、地理的な見方や考え方をを用いて考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会づくりに向けて、地球的課題や地域的課題の解決を模索する態度など
新選択科目 （案）地理に関 わる探究科目	<ul style="list-style-type: none"> 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解 地図や地理情報システムなどを実践的に活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸事象を系統地理的に考察し表現する力や、世界の諸地域を地誌的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため、進んで参加し貢献しようとする態度など
歴史総合 （仮称）	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の考察に関わる概念の理解 歴史に関わる諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 比較や因果などの歴史的な見方や考え方をを用いて考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
新選択科目 （案）日本史 に関わる探究 科目	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開の総合的な考察を通じた理解 多様な資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史にかかわる様々な分野に着目し自ら課題を設定して多面的・多角的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
新選択科目 （案）世界史 に関わる探究科 目	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開の考察に関わる概念の理解 諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の多様性や複合性、相互依存性や多元性に着目して多面的・多角的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など

公民科で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

平成28年2月29日
 教育課程部会
 社会・地理歴史・公民
 ワーキンググループ
 資料8

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることを どう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会、世界と関わり よりよい人生を送るか)
公共 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を捉え、考察し選択・判断していくために必要な概念的な枠組みの理解 ・様々な主体となるために必要な知識、概念や技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家・社会の形成者として必要な選択・判断を主体的に行い、他者と協働しながら様々な課題を解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画への意欲や態度 ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚 など
倫理 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための概念や理論の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚 など
政治・経済 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決策を考察する力 ・構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度 など

社会科等で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

平成28年2月8日
育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料7

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活についての理解(地域や我が国の国土の地理的環境、社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連) ・観察、資料活用 of 技能(社会的事象に関する情報を「集める」「読み取る」「まとめる」技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方や考え方の基礎を用いて、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全や自然災害の防止、我が国の産業の発展や社会の情報化への関心、先人の業績や優れた文化遺産についての興味・関心 ・地域社会の一員としての自覚、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚 など * 世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心、よりよい社会を考えようとする態度等について検討
中学校 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史に対する理解 ・国民主権を担う公民として必要な基礎的教養 ・資料活用 of 技能(社会的事象に関する様々な情報を適切に収集、選択、活用する技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題や問題について公正に判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に対する関心 ・我が国の国土や歴史に対する愛情 ・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す態度 など
地理的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的な認識 ・地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の地理的な見方や考え方をを用いて、事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力 ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・調査したことや思考・判断したことを地図等を用いて説明したり議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の地理的事象に対する関心 ・生徒が生活している土地に対する関心 ・地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度 など
歴史的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の大きな流れ、伝統と文化の特色の理解 ・歴史上の人物と文化遺産の理解 ・歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましの理解 ・年表など歴史に関わる諸資料を活用する技能 * 世界の歴史の扱いを充実させること等を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の歴史的な見方や考え方をを用いて、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 ・歴史にみられる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・思考・判断したことについて説明したり議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象や身近な地域の歴史への関心 ・他民族の文化や生活などへの関心 ・我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚 ・国際協調の精神 ・歴史上の人物と文化遺産を尊重する態度 など
市民的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などの理解 ・政治や経済、国際関係に関する概念の理解 ・統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える見方や考え方をを用いて、社会的事象を現代の社会生活と関連付けたり、現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして社会に見られる課題についての自分の考えを再構成しながら議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的事象に対する関心 ・自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることの自覚 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることの自覚 ・社会に見られる課題に着目し自ら考えようとする態度 など * 政治参加も含め社会に参画しようとする関心、態度等について検討

**(参考) 全ての生徒に共通に育むべき資質・能力と、高等学校各教科の必履修科目の関係等
(仮案・調整中)**

平成27年8月26日中教審 教育課程企画特別部会
論点整理 補足資料 関係箇所抜粋

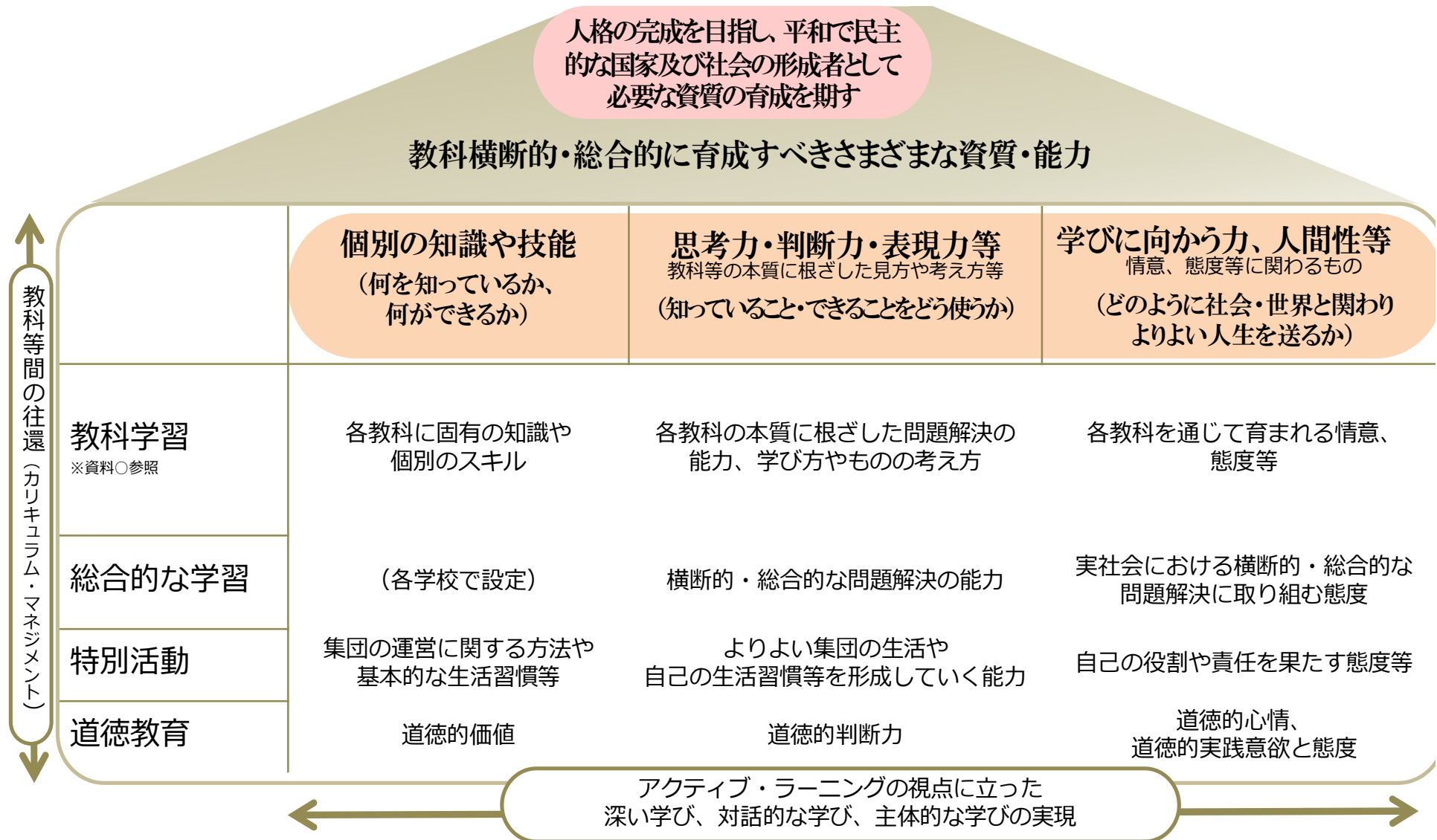
	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることを どう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会, 世界と関わり よりよい人生を送るか)
地理 (地理総合(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムなどの地理的な技能 ・地球規模の自然システム, 社会・経済システムの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置や分布, 場所, 地域などの空間概念を捉え追究する地理的な見方や考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりに向けて, 地球的課題や地域的課題の解決を模索する態度など
歴史 (歴史総合(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び世界の歴史の考察に関わる概念の理解 ・歴史に関わる諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の歴史・グローバルな歴史を横断的・相互的に捉え, 諸資料を活用して, 歴史に関わる諸課題を考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
公民 (公共(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を捉え, 考察し選択・判断していくために必要な概念的な枠組みの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家・社会の形成者として必要な選択・判断を主体的に行い, 他者と協働しながら様々な課題を解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画への意欲や態度 ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚など

* 高等学校地理歴史科, 公民科における新科目については, 今後さらに検討を進める。

(参考)

学習指導要領等の構造化のイメージ（仮案・調整中）

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないかと。



○幼児教育においては、主体的な活動である遊びを通じて総合的に指導。